

9

# 会報

2022.7



大阪市立大学工学部都市会

## 強い思いとチャレンジ精神

**中野 道夫**  
(昭和 56 年卒)  
(中之島高速鉄道 (株))



1981 年 (昭和 56 年) 工学部土木工学科卒業の中野です。

昨年 6 月に京阪ホールディングス(株)取締役常務執行役員および京阪電気鉄道(株)代表取締役社長を退任し、現在は中之島高速鉄道(株)という第三セクターの会社の社長と京阪産業(株)という建材商社の顧問をしております。

私は中学から剣道をし、大学については、大きなものを作りたい、地図に残るものを作りたいとの思いで土木工学科(現在の都市学科)を選びました。そして、1981 年に京阪電気鉄道(株)に入社しました。

京阪電気鉄道(株) (現・京阪ホールディングス(株)) は、「社会の多数を益する」という理念のもと渋沢栄一翁が心血を注いで創立し、1910 年 (明治 43 年) に天満橋～京都五条間で開業しました。今年で 112 年になりますが、これまでの間、合併、分離、延伸などを経て、現在、淀屋橋～出町柳間の京阪本線と交野線、宇治線、大津線の路線所有・運営と中之島線の運営を行うに至っております。

私は入社以来、「三条駅から出町柳駅への地下線延伸 (1989 年開通)」、「中之島線整備 (2008 年開通)」といった路線延伸事業や、「七条駅下手～三条駅間地下化 (1987 年完成)」、「枚方市駅周辺高架化 (1993 年完成)」、「寝屋川市駅周辺高架化 (2002 年完成)」といった連続立体交差化事業など大規模な鉄道建設事業に携わりました。

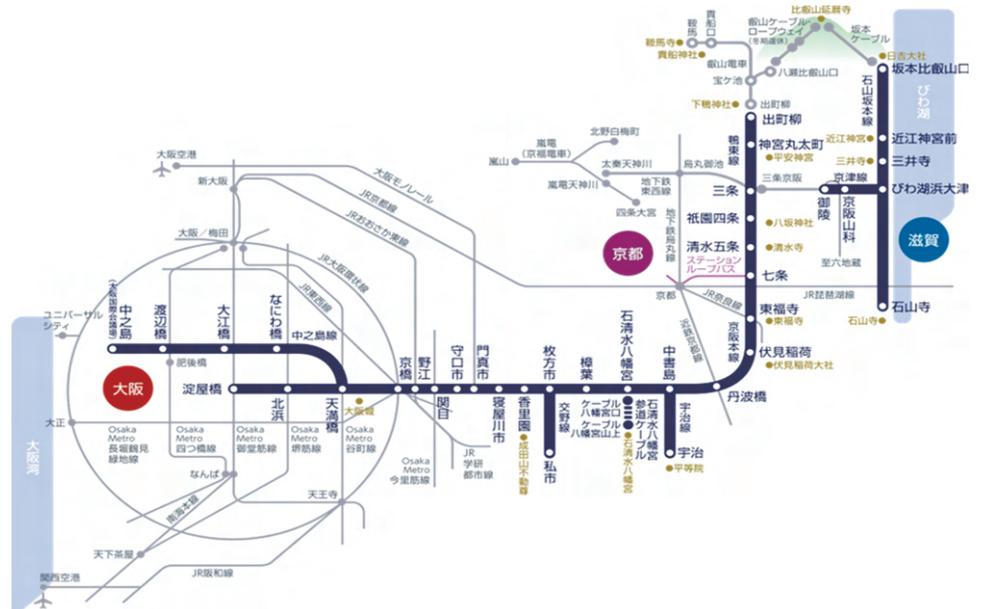
どの事業も苦勞が多い反面、鉄道ネットワークの拡大、安全性の向上、地域分断の解消、駅周辺開発促進などの事業効果や地域社会への貢献度が大きく、完成させた時の喜びはとても大きなものでした。また、たくさんの人に出会い、人脈も広がりました。「土木屋」として本

当に幸せだったと思います。どの事業においても前向きに頑張れたのは、入社当時の上司 (私より 4 代前の金馬昭郎社長) から「前向きな失敗は許す。しかし、後ろ向きな失敗は許さない。だから、失敗を恐れず前を向いて行け。」と勇気づけて頂いたことが大きかったと思います。また、様々な交渉にあたっては、相手を尊重し、胸襟を開いて、真正面から対峙するという「剣道の精神」を生かすことができたことも良かったと思います。

ここで、若い技術者の方々をお願いしたいことがあります。鉄道建設事業だけではなく、様々なプロジェクトを完遂するには「強い思い」と「チャレンジ精神」が必要です。辛いことも多いと思いますが、完成時の大きな喜びは素晴らしいものです。ですから、ぜひ「強い思いを持って、失敗を恐れずチャレンジ」して下さい。

京阪グループは現在、コロナ禍という大きな試練に見舞われています。鉄道事業においてはコロナウィルスが収束してもお客さまのご利用は元には戻りません。テレワーク等で通勤旅客は減少、インバウンドは数年後に戻ってきても、少子高齢化による沿線人口減少の影響の方が大きいでしょう。さらには、気候変動による自然災害の激甚化により数年に一度は大きな災害を被ることも考えられます。ついては、このような旅客の減少や災害にも耐えうる経営基盤(レジリエンス)を構築することで、試練を乗り越えなければなりません。それでも今まで京阪は幾度もの試練を乗り越えてきました。今後もみんなで力を合わせ、この試練を乗り越えてくれるものと確信しております。

私も新たな立場において、今後も「強い思いを持ってチャレンジ」していきたいと思っております。



## 都市学科の近況

2022（令和4）年度学科長

相馬 明郎



### はじめに

都市会会員の皆様には、平素から学科への種々のご支援を頂き、厚くお礼を申し上げます。

一昨年度からの新型コロナウイルスの影響により、期せずして常識を変えるという機運が社会に醸成されつつある中、今年4月から大阪公立大学が発足しました。我が都市学科は、概ね従来の体制で発足する運びとなりましたが、本学科がこれまで育んできた良き文化と、これからの時代に求められる変化を融合する機会が、教育、研究の両側面において訪れていると確信するところです。

さて、お陰様で、今年の3月には都市学科8期生59名が卒業、大学院前期博士課程32名が修了しました。また、大学全体の卒業式・修了式が、卒業生・修了生・学位授与者のみの参加ではあったものの、3年ぶりに行われました。また、4月には54名の新入生を迎えることができました。入学式も、新入生のみでの参加ではあったものの、滞りなく行われました。また、今年度から対面での授業実施が基本となり、キャンパスには活気が蘇ってきています。

### 卒業生・修了生の進路の概要

2021年度学部卒業生53名の進路は、約60%の32名が大学院前期博士課程に進学し、残りの約40%の21名が社会人となりました。就職先は、公務員が8名（経済産業省1、兵庫県1、大阪府1、大阪市4、加古川市1）、民間会社が13名（ゼネコン2、建設コンサル1、住宅・不動産2、その他8）です。同じく2021年度大学院前期博士課程修了生41名の就職先は、公務員が6名（大阪市4、堺市1、水資源機構1）、民間企業35名（ゼネコン2、建設コンサル12、インフラ系11、メーカー7、住宅・不動産3）となりました。今年度は、鉄道、道路、電力、空港などのインフラ系と、建設コンサルタントに就職する学生が多いという特徴がありました。また、今年度は大阪市8名というのも特徴でした。卒業・修了生は、昨年度に較べれば、テレワークとなっている状況は少ないようではありますが、職場そのものも、昨今のコロナの影響で、仕事のスタイルが変化しているところも多く、従前よ

りも、職場・社会での人の繋がりを感じられる機会が少なくなっているようです。都市会会員の皆様には、後輩を温かな目で見守り、支援いただければ幸いです。

### 博士（工学）の授与者

大学院の後期博士課程（都市学講座）では、2019年度は以下の3名の方が博士（工学）の学位を授与されました。

- 令和3年3月、杉本 悠真 氏（主査：山口 隆司教授）「Study on Design of High Strength Bolted Flush End Plate Connections for Bridge Structures」
- 令和3年3月、有村 健太郎 氏（主査：山口 隆司教授）「腐食劣化の生じた鋼 I 桁橋の橋梁システム冗長性を考慮した合理的な耐荷性能評価手法に関する研究」
- 令和3年3月、郎 宇 氏（主査：山口 隆司教授）「新型高力ファスナーを活用した鋼橋の補修・補強技術に関する研究」

### 学生の活動・受賞など（2019年都市学科ニュースより）

主として前期博士課程の学生の2021年4月～2022年3月の活動・受賞です。研究発表やコンペの作品応募など多方面へ積極的に活動し、個人やチームとしての成果を高く評価していただきました（括弧内は受賞当時の学年）。

- 第56回地盤工学研究発表会にて優秀発表者賞：坂口雄人（M1）、中野将吾（M1）
- 2021年度土木学会関西支部年次学術講演会にて優秀発表賞：石井真弘（M2）、福辻菜絵（M1）、古川桃子アンナ（M1）、安井慶人（M1）
- 第19回関西支部研究発表会にて奨励賞：中井 智仁（M1）
- 日本都市計画学会関西支部主催「岸和田・木材コンビナートの将来ビジョンを考える」ワークショップにて最優秀賞：石ヶ森郁弥（B4）、優秀賞：田中伶奈（B4）、三浦慶太郎（B4）
- 環境科学会 2021年会にて優秀発表賞（富士電機賞）：山崎耕平（M2）
- 令和3年度土木学会全国大会 第76回年次学術講演会にて優秀講演者賞：白井悠吾 君（D3）、林周子（M2）、中本勇（M2）
- 第67回構造工学シンポジウムにて優秀講演賞：杉本悠真（卒業生）

- 構造工学論文集 Vol.67 にて論文賞：杉本悠真（卒業生）
- Japan Steel Bridge Competition 2021 美観部門にて準優勝：石田健人（M1）、橋本達也（M1）、平岡葵（M1）、福辻菜絵（M1）、堀井いずみ（M1）、頼健鵬（M1）、李若曦（M1）
- The International Association for Bridge and Structural Engineering Congress Ghent 2021：陳 瑜（D1）、藤原眞幸（M2）、松井駿（M2）
- The Water and Environment Technology Conference 2021-Online にて発表：古川桃子アンナ（M1）
- Estuarine、Coastal and Shelf Science-Online (Elsevier) にて成果発表：岡田大知（卒業生）
- Bridges2021 にて作品掲載：桐原靖也（建築：卒業生）
- コロキウム形態コンテスト（日本建築学会）にて入選：吉山大雅（建築：M1）、小原柊（B4）
- 岩手大学理工学部 システム創成工学科 社会基盤・環境コース 助教 2022年1月1日より着任：杉本悠真（卒業生）

これらに加え、都市学科の学生有志がプロジェクトを組み、作成した環境報告書が、本学の環境報告書として公開されました（2021年3月30日）

### 教員の異動・活動

教員の異動では、2021年9月末に蕭准教授が退職され、10月より九州大学に准教授として着任されました。新天地でのご活躍を期待しております。2022年4月には、空間情報学研究室が新たに設立され、米澤剛（よねざわごう）教授と、杉本賢二（すぎもとけんじ）准教授が着任されました。空間情報と都市の結合から、新しい付加価値を生み出す研究に、今後の活躍が期待されます。また、高木悠里（たかぎゆうり）先生が講師として着任されました。高木講師は本学卒業生でもあり、今後の活躍が楽しみです。

教員の受賞では、大島教授が、令和2年度「地盤工学会誌」年間最優秀賞を受賞されました。山口教授が構造工学論文集 Vol.67 にて論文賞を受賞されました。小林助教が、令和3年度土木学会全国大会第76回年次学術講演会にて優秀講演者賞を受賞されました。吉田准教授が豊中市より「環境行政への貢献」として感謝状を授与されました。アウトリーチ活動としては、内田教授が、「毎日新聞」地方面「人」（2021年9月29日）に取り上げられました。

また、今年度発足の新大学において、重松教授が副

学長、貫上教授が工学研究科副研究科長の重責を担われ、全学および工学研究科の学務および管理運営にご尽力いただくことになりました。

### おわりに

世界に目を向ければ、2022年2月24日に始まったロシア軍によるウクライナ侵攻は依然として収束せず、新型コロナウイルスの感染も、世界で猛威を振るっています。また、IPCCは20年以内に世界平均気温は1.5度以上に達するとの新たな予測を発表し、その要因は人類の活動であることを断言し、温室効果ガス排出削減を早急かつ広範囲に進めていかなければならない気候変動ならぬ気候危機であるとしました。このような内憂外患の中、本年4月1日から大阪公立大学が新たに発足し、本学科ならびに本学は変革の渦の中にあります。また、2025年には大阪万博が開催予定です。こうした中、今、求められていることは、自然と共生し、文化を育み、安全・安心な生活を営めるこれからの都市像を描き、多様な分野の新結合（イノベーション）によって創造すること、また、その担い手を育むことではないかと思えます。この挑戦を成就するためには、産官学民に渡る人々の有機的連携が不可欠です。今後とも、都市会会員の皆様におかれましても都市学科への忌憚のないご指導、ご助言をいただくとともに、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上



# 都市学科近況報告

## 安全防災領域

### 構造およびコンクリート工学分野

今年度の構造及びコンクリート工学研究室は、学生が前期博士課程4名（M2:3名、M1:1名）、4回生4名の計8名と鬼頭宏明教授と角掛の教員2名という、研究室としては小人数ですが、このメンバーでより幅広い研究活動を実施して行く所存であります。なお、昨年度は、前期博士課程3名（大阪メトロ、JR西日本、NEXCO西日本）、学部3名（鹿島建設、加古川市、シーキューブ）が社会人として巣立っていきました。

現在の研究活動としては、複合構造、コンクリートの補修・補強、維持管理を対象に実施しておりますが、新たなことにも挑戦しており、コンクリート材料、特に水の違いによるコンクリートへの影響を様々な分析法を踏まえて研究を実施してみましたが、なかなか難しく、苦戦している研究などもあります。

卒業研究や修士論文以外にも卒業生の関連企業を始め、製品開発にも関わる様々な研究も行っており、微力な教員に代わって特に大学院生は様々な研究活動に携わりながら研究室を盛り上げてくれています。ただし、このコロナ禍のため、研究室としての遊びは出来ず、親睦には苦勞しております。なんととってもこの2年ほぼともに、懇親会が実施できていないのが寂しい限りです。他の研究室に比べ頻度高目で実施していましたので。

授業および研究においては、この2年間、常にマスク着用でかつ実験は小人数が原則で、かつ衛生面には特に気を使いながらでありましたが、継続中です。1昨年度よりはまだ毎日、学校に来ることが当たり前の環境に近い状態で研究活動を行うことが出来ました。特に修士学生自身が工程管理をしっかりとやりながらの研究活動でありました。現時点では、今年度も学生には苦勞を掛けることになりそうです。

また、教育活動の一環としての現場見学は、1昨年度は出来ずじまいでしたのでなんとか実施しようと苦勞しました。昨年度もコロナ禍のため、なかなかタイミングが難しい状況が続く中、大阪府の岸和田土木事務所さんにご協力頂き、近場ですが補修工事中の田

尻跨線橋と田尻スカイブリッジについて見学させて頂きました（写真）。現場でしか経験できない高所作業車の体験もさせて頂くことが出来ました。なお、年末の授業期間外で希望者のみとして実施しましたので、研究室全員での参加とまではいきませんでした。ただ、年末実施したことにより、修了生1名が飛び入りで参加していただきました。

2年続けて学会もオンラインが続き、学会発表での出張も無く、学生にとって学会の雰囲気（出張における楽しむ場も含め）を十分に感じる事が出来ない状態であったのは残念ではないです。当然、教員にとっても泊りの出張が無いのは寂しい限りですが、今年度も多くで、オンラインが決定しておりますが、現地での開催可能性もある学会が実際に開催されるのか心配ではあります。

今年こそは、気兼ねなく、現場見学や遊びなど学生に有意義な行動が出来る機会を増えることを期待しています。

1昨年に比べれば、まだ昨年度は改善されましたが、まだまだ卒業生のみならず企業の方とも直接会う機会もめっきり少なくなっております。学生だけでなく教員にとっても十分な情報交換が出来てないと感じております。

今年は新型コロナ感染症に対する規制が緩くなるもしくは、終焉に向かう事を切に願い、より学生にとって、また研究室としても様々なことに挑戦できる機会を増えることを期待してスタートをしております。



現場見学：田尻スカイブリッジをバックに

## 応用構造工学分野

2022 年 5 月現在、教員 2 名（山口隆司教授、林巖助教）、特任教授 1 名、客員教授 1 名、秘書 1 名、博士課程 7 名（うち、社会人 4 名）、修士課程 15 名、学部生 6 名の総勢 33 名で、日々、勉学・研究に取り組んでいます。

本研究室の大学関係 OB に異動／昇進があり、2022 年 1 月 1 日付けで、杉本悠真さん（2021 年修了）が岩手大学の助教に、2022 年 4 月 1 日付けで、熊本大学の森山仁志助教（2017 年修了）が徳島大学の講師に就任、2022 年 5 月 1 日付けで九州工業大学の高井俊和助教（2015 年修了）が准教授に昇進され、各地の大学で鋼構造／橋梁工学分野の研究に励んでいます。

教育面では、ここ 2 年は新型コロナウイルスの拡大防止のため制約がありながらもオンラインを活用し、研究室ゼミ、国内外のシンポジウム・会議における研究成果の発表（写真 1）に取り組んでいます。『神戸市橋梁模型コンテスト』や、全国の鋼構造系教員からなる JSBC 実行委員会主催の『Japan Steel Bridge Competition』（写真 2）への参加を通じて、外部との交流が途絶えないように努力しています。土木構造物の現場・現地見学サークル『ぶら土木』の 2021 年度は、新名神高速道路成合第一高架橋、震災資料保管庫、新名神高速道路城陽 JCT、茨木亀岡線橋梁（写真 3）などの現場見学を行い、研究室の学生のみならず、学部生 1～3 回生も対象にして橋梁構造物に触れる機会の提供に注力しました。

研究面では、接合部材の現場取替え工法の検討、合成桁の床版取替え工法および接合構造の提案、鋼床版の下面補強工法、接合部および当て板補修部材の耐荷力評価、橋梁ヘルスマニタリングに力を入れています。また、皿型高力ボルトや双皿型高力ボルトセット、片面施工ボルトなどの新型ファスナー開発や、軽量・高耐食性に優れる GFRP 部材の接合構造の検討にも取り組んでおり、橋梁・橋梁付属物の長寿命化や現場施工の効率化の検討を行っています。

具体の研究テーマは、研究室 HP 研究ポスターの項（<http://brdg.civil.eng.osaka-cu.ac.jp/>）をご覧ください。研究室の近況は、Facebook、Instagram にて随時配信しています。

（<https://www.facebook.com/omukyoryoken/>）

（[https://www.instagram.com/omu\\_bridge/?hl=ja](https://www.instagram.com/omu_bridge/?hl=ja)）  
引き続き、ご支援賜りますようお願い申し上げます。



写真 1 国際学会発表会（オンライン、2021.08）



写真 2 Japan Steel Bridge Competition 2021  
（オンライン、2021.09）



写真 3 ぶら土木 茨木亀岡線橋梁架設工事  
（2021.09）

## 地盤工学分野

2021 年度も一昨年度と同様に COVID-19 によって研究・教育活動がかなり制限されましたが、教員も学生も環境に慣れてきたこともあり、それほど不自由なく実施できたと思います。しかし、学会や調査等の学外での活動は未だ不自由な状態が続いており、近年 9 月に恒例であった研究室全員参加での地盤調査とその後のゼミ旅行を 2 年連続で実施できませんでした。

さて、2025年の万博開催に向けて夢洲での会場地整備が進んでおりますが、2021年度は夢洲万博会場予定地をフィールドとして地盤調査と土質試験を実施し、万博開催までの圧密沈下予測を行いました。また、これらの成果は大島教授が委員長を務める地盤工学会関西支部研究委員会「夢洲の地盤性状と沈下性状の研究委員会（2021年～2023年）」を通じて広く公開されています。

2021年度には地盤研の教員と学生が以下の賞を受けました。

①大島昭彦『2020年度「地盤工学会誌」年間最優秀賞』、②坂口雄人、中野将吾『第56回地盤工学研究発表会優秀発表者賞』、③高橋秀一・大島昭彦・武野航大・吉見侑子・坂口達哉『2021年度地盤工学会関西支部地盤技術賞』、④夢洲の地盤性状と沈下性状の研究委員会による現場見学会（オンライン）『2021年度地盤工学会 事業企画賞』。

また、D3だった深井公（積水ハウス）さんの博士論文（スクリーウエイト貫入試験における各種要因の影響とN値、su値との相関性に関する研究）の公聴会が2022年2月11日に執り行われ、博士（工学）の学位を取得されました。

さて、地盤研の教育内容を簡単に紹介しますと、学部では、基礎科目として2年次に土質力学Ⅰ・同演習と土質力学Ⅱを、応用科目として3年次に地盤基礎工学、地圏環境工学、地盤防災工学、4年次に土質実験を提供しています。大学院では、地盤工学特論（土のせん断試験論、液状化予測、宅地の基礎工法）と地盤防災工学特論（斜面防災と地震防災）の2つの講義科目と2つの特別演習（一次元圧密解析、地震応答解析）を提供しています。

最後に、現在地盤研で取り組んでいる研究内容を紹介いたします。

#### ① 関西圏の地盤特性

- ・地盤情報DBと基準地盤調査結果に基づく「250mメッシュ浅層地盤モデル」の構築とWebでの公開（関西圏地盤情報ライブラリ）

#### ② 地盤調査方法の高精度化の検討

- ・大型動的コーン貫入試験の貫入機構、周面摩擦力の測定と打撃回数の補正方法の提案、
- ・スクリーウエイト貫入試験結果とN値、su値との相関式の提案
- ・プラスチックボードドレーン打設時の貫入抵抗に基づく地盤性状の推定
- ・サウンディング時の音測定による土質判定の開発

#### ③ 地下水・地盤環境の検討

- ・地下水位低下による地盤沈下と液状化対策効果の予測（浅層地盤モデルの応用）
- ・帯水層蓄熱利用システム（ATES）による地盤沈下の予測
- ・プラスチック廃材の地盤材料としての有効利用に関する研究

#### ④ 地盤防災の検討

- ・地震応答解析による揺れやすさと液状化危険度の予測（浅層地盤モデルの応用）
- ・遠心模型実験による経済的な宅地の液状化対策工法の開発

#### ⑤ 夢洲の短期・長期的な沈下の検討

- ・夢洲2区（万博会場）、3区（IR予定地）の浚渫粘土層の短期的な沈下予測
- ・夢洲全体の地盤性状と沖積、洪積粘土層の長期的な沈下予測



港区弁天6（安治川水門）での地盤調査の様子

## 河海工学分野

新大学になった2022年度も河海工学研究室は、重松・中條の教員2名体制で教育・研究に取り組んでいます。また研究支援課の小池敏也技術職員、秘書の杉浦様、麓様にも変わらずお力添えいただいております。ありがとうございます。

2022年度の河海工学研究室は、修士2年生7名、修士1年生4名、学部4年生6名に、研究生1名、客員教授1名と客員研究員1名の20名体制で、研究に望んでおります。研究生の孫啓琛君は中国出身で、本研究室に進学を希望して頂いています。徐々に新型コロナウイルスの制限が緩和されつつある中で、これ

までは自粛していた研究室内の交流も含め、全員で楽しく学べる雰囲気を作ってもらえればと思います。

本研究室は、教育面では、全学提供の「コミュニティ防災」などの科目の一端を担い、専門科目では「都市工学のための科学基礎」（新大学1回生科目）、「プログラミング演習」、「測量学Ⅰ実習及び製図」、「都市学実験Ⅰ」を分担、「基礎流体力学」、「水理学」、「水理学演習」、「河海工学」、「水防災工学」を主担提供しています。「水防災工学」は、佐山敬洋先生・山口弘誠先生（京都大学）・川崎浩司先生（(株)ハイドロ総合技術研究所）に非常勤講師としてご助力をいただいています。また、大学院では「流体環境・水防災工学特論」、「特別演習（河海環境構造工学）」を提供しています。

研究面では、(A)基礎研究として、多孔質体通過流れや振動円柱に関する水理実験や、固液・気液界面を包括的に解く事のできる数値シミュレーション方法の開発などを行っています。また(B)環境問題への適応策に関する研究として、内湾環境に適合した波力発電システムに関する研究、社会構造の変化を受けた内湾環境の将来像に関する研究、生態系ネットワークの構築を視点とする内湾環境改善施策に関する研究なども進めています。(C)気候変動の影響評価や災害に関する研究として、大阪市域の浸水伝播過程及び排水過程の推定、防災・減災学習プログラムの開発、全球確率台風モデルを用いた強風・高潮・高波などの低頻度大災害のポテンシャル評価、台風予測の不確実性評価とリアルタイム防災システムと防災教材の開発、気象津波のメカニズムと予測に関する研究、全国の砂浜モニタリング手法の開発、など多方面に展開しています。

研究のテーマに関わる話として、2022年1月15

日にはトンガの海底火山が噴火し、それに伴う気圧波に誘起された気象津波が全国の沿岸に到達しました。気象庁の津波予報システムでは地震由来の津波を想定していたので、それよりも早くに発生した津波で深夜に大きなニュースとなりました。研究室ではちょうど2021年3月から前線や低気圧で発生する微気圧波の発生状況について関西地方で計測することを試みていたところでしたので、この100年に1度かもしれない災害の一端を初年度に計測できたことは幸運でした。このデータを元に引き続き研究を進めていきたいと思っています。

2021年度は研究成果を、土木学会関西支部年次学術講演会、海洋開発シンポジウムと海岸工学講演会でZoomにて発表しました。パンデミックも2年目となると全員が遠隔でのプレゼンテーションにも慣れていましたが、やはり学会はたまたま聴講した話題が面白かったり、休憩時間中に他大学の発表者と雑談することも含めて価値があると思いますので、対面形式が早く開催されてほしいと願っています。



## 環境創生領域

### 地域環境計画分野

地域環境計画分野は、都市学科の中で、熱とエネルギー利用に関わる研究・教育を担っており、都市居住における熱的快適環境を創出すること、脱炭素化社会を実現するための効率的なエネルギー利用技術の確立を目指しています。分野を構成している教員は教授・西岡真稔と、教授・鍋島美奈子の2名であり、西岡は都市の熱環境に関わる伝熱理論や都市・建築の再

生可能エネルギー利用技術を専門とし、また鍋島は都市の微気象と空間解析および建物群の熱融通技術を専門としています。都市のエネルギーシステムが専門である名誉教授・中尾正喜（都市科学・防災センター特任研究員）とは、引き続き連携して研究を進めています。2022年度は、後期博士課程1名、前期博士課程8名、学部4回生6名、研究生2名の合計17名（男性15名、女性2名）の学生が研究室に所属しており、最近では①建物群熱融通・熱利用ネットワークの開発、②蓄熱・蓄電を用いた再エネ（太陽光発電）の

自家消費向上対策、③クールスポットの環境評価・環境創出技術、④都市型農業施設のゼロエネルギー化などの研究に注力しています。

前述の研究テーマから③を選び、紹介します。研究背景として、大阪府では森林環境税による補助事業「都市緑化を活用した猛暑対策事業」が実施されており（2020-24年度）、駅前広場やバス停などの屋外空間にクールスポットの創設を推進しています。我々は大阪ヒートアイランド対策コンソーシアムと協働で、夏季屋外空間において一定時間休憩することができる良質なクールスポットを増やすことを目的として、快適性、機能性、立地条件から成るクールスポットの評価指標の開発をおこなっています。

最後に、研究室の近況を写真で紹介합니다。2021年度卒業式・修了式は、2年ぶりに式典と学位授与式が開催されました。天気にも恵まれ、修士卒4名、学部卒6名が巣立っていきました（写真1）。今後もそれぞれの持ち場で元気に活躍することを期待しています。4月になって年度が替わり、新しいメンバーでの新たなスタートの日、全体集合写真を撮影しました。今年度は対面でのゼミを基本とし、2年ぶりに恒例の小実験も再開するなど、通常の学生生活を取り戻しつつあります。研究室OB・OGの皆さんともリアルに集まり、懇親できる日を楽しみにしています。



写真1 学位授与式後の記念写真（2022年3月24日）

## 都市リサイクル工学分野

都市リサイクル工学分野のスタッフは、貫上佳則教授と水谷聡准教授、年見寛和技术職員の3名の教職員と、秘書の坂井圭子さん、主に水谷准教授の研究を

支援いただいている実験補助の相原咲季さんの5名です。本年度の学生は、修士課程の2回生1名と1回生3名、および学部4回生が6名の計10名です。一昨年度から続く新型コロナウイルスの影響により食事や会議等は制限が続いていますが、徐々に対面での活動が再開し、研究活動も活発になりつつあります。

都市リサイクル工学という研究分野ですが、ごみに関する研究だけでなく、廃棄物処理システムの適正管理、廃棄物・廃水からの資源エネルギー回収、リサイクル時の環境安全性評価、都市の廃棄物処理・上下水道システムの減災化、震災時の化学物質の挙動の予測など様々な研究を行っています。

一例として、最終処分場における有機キレート薬剤の挙動に関する研究について紹介します。ここでは有機キレート薬剤は焼却飛灰に含まれる重金属の溶出を抑制するために用いられる薬剤のことで、この薬剤は浸出水処理時に硝化阻害を引き起こす可能性があると言われていています。本研究室では、薬剤処理飛灰に対して溶出試験を行い有機キレート薬剤の溶出特性を調べています。また、実際の最終処分場の浸出水を継続的に採取・分析し、有機キレート剤の中間分解物の硝化阻害性を調べるとともに、分解物の物質同定や、処理法についても検討しています。

学会活動では廃棄物資源循環学会を始め、環境技術学会や下水道協会、日本水環境学会、日本環境化学会、環境科学会など様々な場所で独自の研究や産官および他大学と連携した研究の発表を行っています。昨年度は、環境科学会2021年会にて山崎さんが優秀発表賞（富士電機賞）を受賞されました。

さらに、建設系廃棄物の有効利用について関連業界と研究者、行政機関が情報交換を行う建設資源リサイクル研究会（会長は、本学名誉教授の山田優先生）を30年近くに渡って運営しているほか、新たに廃棄物の処理や環境プラントの関連業界との情報交換を行う研究会を3年前から運営しています。このように研究のみでなく、各方面で学生の将来にも役立つよう取り組んでいます。

研究室の行事としてのOB・OG会や研究に関係のある施設の見学を含めたゼミ旅行などは、学生にとっては先輩方から環境・土木業界の情報を知ることができ、また学生と教職員が共に楽しむことができる行事なのですが、コロナ禍のために一切実施できず残念に思っています。今年はなんとかできることを期待しています。

そのほか、本学のエッセイ活動支援事業の下、本

研究室の学生や都市学科の学生有志を中心として環境報告書作成プロジェクト活動を行っています。昨年度からは他学部からも学生メンバーを迎え、新たな視点も加えた報告書作りを目指しています。今年度からは大阪公立大学杉本キャンパスの環境報告書作成プロジェクトとして、他キャンパスのメンバーとコミュニケーションを取りつつ、幅広い活動を行っていきたいと考えています。大学の多くの方々のご協力に心より感謝申し上げますと同時に、大学統合後もより良い環境報告書の作成と環境に優しいキャンパスを目指して活動していきます。

都市会の皆さまには、ゼミ旅行先、共同研究、学生の就職活動などでこれからも多々お世話になると思いますが、引き続き、ご指導のほど、宜しくお願い致します。

参考：大阪市立大学環境報告書

[https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/info\\_university/environmental\\_report/copy\\_of\\_2020](https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/info_university/environmental_report/copy_of_2020)



写真1 卒業式の日集合写真

## 環境水域工学分野

環境水域工学研究室は、相馬明郎教授（専門：水圏生態工学）、遠藤徹准教授（専門：水圏環境工学）、小池敏也技術職員（研究支援課）の3名の教職員で、都市の流域圏における生態系の保全と活用に資する研究・教育を行っています。2021年度の研究室メンバーは、前期博士課程：10名、学部4回生：7名、学部3回生（早期配属希望制度）：1名の計18名という体制でした。このうち、前期博士課程2回生4名と学部4回生2名の合計6名が、日本工営（株）、（株）荏原製作所、三井共同建設コンサルタント（株）、（独）

水資源機構、大阪市役所（2名）へと旅立ちました。

教育面については、学部教育で「環境生態学」、「水圏生態工学」、「基礎移動現象論」を、大学院で「水圏生態系工学特論」、「沿岸環境工学特論」、「特別演習（社会・生態システム論）」「特別演習（沿岸環境工学）」などを提供し、都市（社会）における生態系の重要性と役割について教育するとともに、生態系機能を社会活動に活用するための学問（生態系工学）の教育を行っています。

研究テーマは、①都市圏干潟・浅海域における環境改善に関する研究、②都市沿岸生態系における貧酸素化の改善に関する研究、③都市沿岸生態系の気候変動緩和機能に関する研究、④生態系回復と貧栄養化の関係性に関する研究、⑤全球の沿岸生態系保全による気候変動緩和策、⑥OCU社会生態系モデルの開発、⑦食物連鎖を介した有害化学物質の生物濃縮機構の解明、⑧湾央域あるいは干潟浅海域の堆積物表層における物質循環メカニズムの解明、⑨大阪湾の海岸堆積層における形態別炭素の分画、⑩ディープラーニングによる港湾海域における漂流ごみのモニタリング、⑪定点カメラによる大阪湾南港野鳥園の生態系モニタリングシステムの開発、⑫環境統計データに基づく大阪湾環境の変遷、⑬関西国際空港周辺護岸における海藻の変遷など、数理モデル・フィールド調査・室内実験・統計データ解析など、あらゆる手法を駆使し、近畿圏から全球スケールにおける水圏生態系に関わる研究を実施しています。また、学内のみならず他の研究機関（港湾空港研究所、兵庫県水産試験場、東洋建設鳴尾研究所）、大学（東京大学、広島大学、大阪府大高専）、産官（関西エアポート、大和川河川事務所、大阪府、大阪市、水資源機構）などと連携しながら活動しています。

2021年度も、コロナウイルス感染拡大防止のため、対面によるイベントはほとんどできませんでしたが、次のような研究発表を行いました。

- 土木学会関西支部年次学術講演会（オンライン）で、M1の大町君、小森君、古川さん、両國君と卒業生の重松さん、中道君が卒業研究の成果を発表し、古川さんが優秀発表賞を受賞しました。
- 海洋理工学会秋季大会（オンライン）でM2の屋敷君、M1の大町君、両國君が研究発表しました。
- 「The Water and Environment Technology Conference 2021-Online」でM1の古川さんが研究発表しました。
- 卒業生の岡田君の研究成果が「Estuarine, Coastal and Shelf Science-Online (Elsevier)」で発表されました。

- 海岸工学講演会（オンライン）で「サンゴ・海草・マングローブ複合生態系の気候変動緩和機能とサンゴの役割」、「大阪湾における CO2 分圧の長期変動特性に着目した海域分類に関する研究」の研究発表を行いました。
- 土木学会論文集 B3（海洋開発）に「大阪南港野鳥園人工塩性湿地における海藻類の炭素吸収活性に関する研究」を発表しました。

今年度の学会関係はすべてオンライン開催で現地での参加ができませんでした。一方で多くの学生がオンライン参加でき、学会の雰囲気味わえました。

この 2 年間は新型コロナの感染拡大防止のため、研究活動が制限されておりましたが、2022 年度は少しずつ制限が緩和されるような雰囲気になっていきます。まだ時間はかかると思いますが、久しぶりに研究室にもお越しください。



卒業式の集合写真:残念ながら追いコンは開催できませんでしたが、感染に注意を払いながら撮影しました。

## 都市デザイン領域

### 都市計画分野

2021 年度の都市計画分野は、嘉名光市教授、蕭閔偉准教授、後期博士課程 3 名、前期博士課程 5 名、学部 4 回生 8 名、研究生 2 名、研修生 1 名の体制で活動を行いました。

9 月末で蕭准教授が退職（九州大学に転出）され、その後は 1 名での指導となりましたが、従来通り積極的な活動を行いました。

研究活動は、都心の回遊性向上に向けた滞留等に関する研究、メディアファサードによる景観評価、市民プロモーション活動に関する研究、生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪を対象にした tweet（つぶやき）を分析した研究、城下町八戸の街区内細街路の利用実態に関する研究、多国籍化する生野コリアタウンのまちづくり研究など、ニュータウン再生の一環で取り組まれている公園活用の研究など、神戸市まちなか防災空地の利活用に関する研究などバリエーション豊かな研究を行いました。現在御堂筋では空間再編の事業を行なっています。側道を車道から歩道へと変える、いわゆる歩行者空間化の事業を進めています。嘉名は一連の設計に参画していますが、整備後の利活用のあり方を確立することが課題となっています。そこで、今年度は、大阪市、地元まちづくり団体等と共同で、社会実験の企画運営、各種調査研究に取り組み

ました。

例年通りコンペ活動も活発で賞をいただきました。日本建築学会近畿支部都市計画部会主催第 12 回アーバンデザイン甲子園では、土屋文佳（M1）らが入選しました。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、研究室での教育研究活動の制約が大きいなか、学生諸君も大変だったと思いますが、さまざまな創意工夫を盛り込みながら精力的に活動してくれました。

研究室の活動の詳細はホームページで報告していますので、ごらんください。



卒業式当日の記念写真

## 都市基盤計画分野

### 1) 教員及び学生

#### ◇内田敬／教授

交通工学・国土計画：都市活性化のための来街者支援情報システム、交通需要予測のための回遊行動観測システムの開発、視覚障害者の街歩き支援ナビゲーションシステム

#### ◇吉田長裕／准教授

交通環境工学：都市交通のグリーン化に関する研究、歩行者・自転車の快適性、安全性の評価方法に関する研究

◇学生（2022年度）：後期博士課程1名、博士前期課程7名（大阪公立大学大学院）、学部6名、計14名。2021年度には、前期修士課程6名修了、学士課程7名卒業。

### 2) 活動状況・研究成果について

2021年度の教員と学生の活動状況等です。

#### <教員活動状況>

- 2021年1月31日：内田教授の研究内容が「点字毎日」の「体感ルポ」で取り上げられました。
- 2021年9月29日：内田教授が「毎日新聞」地方版「人」に取り上げられました。
- 2021年12月14日：内田教授がラジオ大阪「話の目薬ミュージックソン」に出演しました。
- 2021年3月31日：吉田准教授が、豊中市より、「環境行政への貢献」として感謝状を授与されました。
- 2022年3月8日：吉田准教授が分担執筆した書籍「余韻都市—ニューローカルと公共交通」（鹿島出版会）が出版されました。

#### <学生活動状況>

- 2021年5月23日：石井真弘くん（M2）が、オンラインで開催された2021年度土木学会関西支部年次学術講演会において、優秀発表賞を受賞しました。
- 2021年7月31日：中井智仁くん（M1）が、オンラインで開催された第19回関西支部研究発表会において、奨励賞を受賞しました。
- 2021年12月18日：日本都市計画学会関西支部主催の「岸和田・木材コンビナートの将来ビジョンを考える」WSにおいて、石ヶ森郁弥くん（B4）が最優秀賞を、田中伶奈さん（B4）、三浦慶太郎くん（B4）が優秀賞を受賞しました。

#### <修士論文題目>

- 対人安全性を考慮した「盲導ロボット犬」の回避挙動

制御

- 利用者・運行コストを拡張したライドシェアリングシステムの運行最適化モデル
- 視覚障害者のQOL向上につながる「ことばの観光地マップ」の実用展開に関する研究
- 無信号横断歩道における自動運転車と歩行者の衝突事故Unityシミュレーション
- COVID-19パンデミック下における通勤者のシェアサイクル選択行動に関する研究
- モバイルプローブデータを用いた街路における歩行者交通流の可視化手法に関する研究

#### <卒業論文題目>

- 聴覚的MR体験としての「ことばの観光地マップ」の活用に関する研究
- 車両軌跡データを用いた都市高速道路サグ部におけるマイクロ交通流モデルの検討
- 自動運転車の乗降空間設計へ向けたオンデマンドバスの乗降需要・乗降空間分析
- 自動運転車のeHMI検討のためのUnity仮想空間の構築
- 住民のアクティビティを考慮した道路内における滞留空間の活用意向に関する分析—大野川緑陰道路における事例—
- 信号交差点における隅角部条件に着目した自転車と左折車との選択的錯綜状況に関する分析
- 高校生を対象とした電動アシスト自転車の車載動画を活用した交通安全ワークショップ効果の比較研究



研究室メンバーの集合写真（2021年11月）

## 環境図形科学研究室

2022年度の環境図形科学研究室では、学部教育において専門科目の建築図形科学1、図形科学1全学共通科目の図形科学I、II、大阪の都市づくり、初年次ゼミナールを担当し、大学院教育では、建築情報処理特論と特別演習を担当します。

以下は 2021 年度の主な活動です。

＜幾何学、グラフ理論などの数理に基づいた建築・都市の設計手法の探求＞

日本建築学会全国大会はオンライン開催となり、M1 の植田君（都市）と吉山君（建築）が研究発表をしました。

吉山君、B4 小原君（都市）が日本建築学会が主催するコロキウム形態コンテストに入選し、10 月に建築会館で発表（対面）しました（図 1）。

情報・システム・利用・技術シンポジウムが京都にてハイブリットで行われ、植田君が研究発表（遠隔）を行いました（図 2）。

＜修士論文題目＞

- ・ 深層学習による伝統的景観保全のための奈良町屋ファサードの生成に関する研究
- ・ 近隣型商店街の表現・あふれ出しによる建物間相互作用に関する研究

＜卒業論文題目＞

- ・ ネットワーク分析を用いた二階建て一室空間住居の室配置に関する研究
- ・ 3次元都市モデルを用いた街歩きの空間変化に関する検証

＜学会活動＞

- ・ オンラインにてデザイン科学数理知能研究集会を 7 月、2 月に開催しました。
- ・ 情報シンポにて OS（ハイブリット）を 12 月に開催しました。
- ・ 建築情報学会の LaTeX 論文フォーマットを生科の瀧澤先生とともに準備しました。

2022 年度は M2 が 2 名、B4 が 5 名、堺市からの研修生 1 名、研究支援員（京大助教）1 名、小林を含めて 9 名体制で研究活動を進めていきます（図 3）。

日本建築学会 デザイン科学数理知能小委員会におきましては主査、建築情報学会では、論文編集小委員会の副主査を昨年度から引き続き務めます。

引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

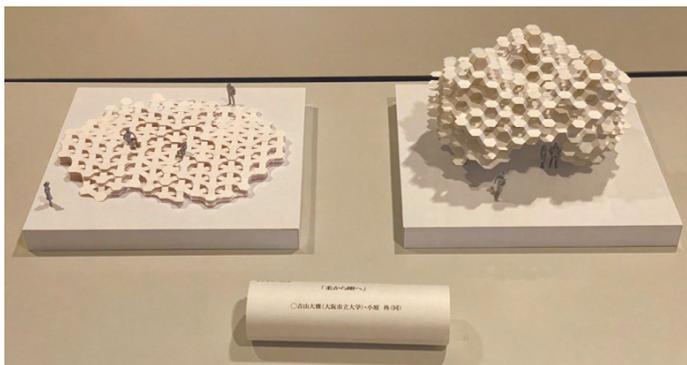


図 1 柔から剛へ



図 2 情報・システム・利用・技術シンポジウム



図 3 卒業式にて研究室学生とともに

## 空間情報学分野

空間情報学研究室は 2022 年 4 月、大阪公立大学の開学とともに新しく開設され、教授・米澤剛と准教授・杉本賢二の 2 名の教員が担当しています。学生は 3 名の 4 回生が新しく配属されました（写真 1）。彼らは研究室としての 1 期生にあたり、見本となる先輩がいない環境の中でもお互いに助けあい議論し、切磋琢磨して自分の研究テーマを探求しており、その様子はとても頼もしいです。5 月初旬の現時点ではまだ研究テーマはぼんやりとしたイメージですが、年明けにはきっと満足のいく卒業研究を仕上げてくれることと期待しています。また、研究室の場所は他の都市学科の研究室とは異なり、学術情報総合センター（杉本図書館）の 9 階（学生研究室）と 10 階（教員研究室）になります。

空間情報学研究室では、自然災害や環境変化に強い持続可能な都市を実現するためにさまざまな空間情報を GIS（地理情報システム）やリモートセンシングなどの空間情報処理技術を用いて都市を多面的に分

析します。そのために自然科学や人文・社会科学を含めた空間情報を活用できる多様な教育や研究をおこなって参ります。とくに国内外の都市を地下の地質・地盤から地形、さらにはその上の環境や人間活動圏を包括した3次元空間として捉え、それらの空間情報を収集・管理・解析・可視化・共有し、都市計画や基盤計画につなげて、その成果を社会へフィードバックすることを目指しています。

さて空間情報という言葉ですが、地理空間情報とも呼ばれ、第4期となる新たな「地理空間情報活用推進基本計画」が令和4年3月に閣議決定されるなど、国としての高度活用も推奨されています。空間情報は一般的に地球上の「空間」にある位置を示す情報（位置情報）とそれに関連づけられたさまざまな事象を統合した情報のことです。このような情報を扱う学問が空間情報学であり、空間情報を扱うシステムの一つとしてGISがあります。近年、GISは空間情報の解析や可視化などの最先端技術の導入により高度化し、世界レベル・国レベルでの基盤となる情報の整備や活用になくしてはならない必要不可欠なツールとなりました。GISの活用は文系や理系を問わず、都市研究を含む多くの学際的な研究分野でも進められています。そ

のため自然や生態環境、自然災害だけでなく都市管理や都市防災、都市基盤整備や都市計画を含めた、グローバルな諸課題に対して空間情報学は横断的に幅広く、ますます重要な役割を果たすと期待されます。

現在、世界中の主要な都市は環境問題や自然災害、人口増加、インフラの老朽化などの多様な都市問題に直面しています。空間情報を活用して柔軟かつ多面的な視点からその問題解決に向けたアプローチができる人材育成、持続可能な都市の未来をともに目指す研究室の基盤づくりをおこなっていきたくと考えています。都市会の皆様には今後ともよろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



写真1 4月の研究室ガイダンスにて

## 退職教員挨拶

蕭 耕偉郎

(しょう こうじろう)

九州大学

初春の候、皆様益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。私事ではございますが、皆様へのご挨拶が大変遅くなりまして申し訳ございません。遅まきながら、2021年9月末をもって、大阪市立大学を退職させて頂き、10月から九州大学に所属させて頂くことになりましたことを、ご報告させていただきます。2017年10月着任以来、都市学科ならびに都市計画研究室にて奉職して丸4年間でしたが、本当に皆様には大変お世話になり、多くを勉強させて頂きましたことを、心より御礼を申し上げます。これまで長い間、大変にお世話になってまいりました都市計画研究室の嘉名教授

はじめ、研究室の卒業生、学生諸君に、改めて感謝の意を申し上げます。

都市学科、都市計画研究室に在籍中は、大阪市立大学工学部内の学科を超えた緊密な連携や、土木工学科から、環境都市工学科、都市基盤工学科を経て、都市学科に至る長い歩みの中で受け継がれてきた都市会の伝統、都市学科と建築学科との強い繋がりを体感しながら教育研究に取り組んでまいりました。特に、都市会が構築してきた大阪を中心として関西や全国に広がる幅広く綿密なOBのネットワークや社会資源は、学生らの就活や演習、授業の企画など多くの場面で本当にお世話になりました。退職に際し、直接ご挨拶にお伺いできなかった都市学科の先生方、都市会の皆様には本当に大変失礼いたしました。何卒ご容赦を賜れば幸甚です。

皆様におかれましては、福岡や九州にお越しの際は、是非お声がけ頂ければ嬉しく存じます。皆様とまたお会いできますことを心より楽しみにしております。また、今後も、都市学科の先生方、都市会の皆様とは、是非とも大学を横断した連携関係を継続して大切に

させて頂きたく、今後ともご指導・ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。重ねて、私事で大変恐縮ですが、2021年末に、蕭 耕偉郎（ショウ コウジロウ）に改名させて頂きましたことを、併せてご報告を申し上げます。改めて今後ともよろしくお願いいたします。末筆ながら、皆様の今後ますますのご健

勝とご多幸、並びにコロナ禍の早期終息を、心よりお祈りを申し上げます。



## 新任教員挨拶



**米澤 剛**  
(よねざわ こう)  
教授

私は2011年4月から本学大学院創造都市研究科に着任し、2018年4月からは大学院工学研究科を兼任し、空間情報学特論や特別演習（空間情報学）を担当していました。2022年4月から大阪公立大学の開学とともに工学部都市学科空間情報学研究グループとして学部教育も担当することになりました。これまでの経歴としましては、2005年に本学大学院理学研究科において博士号を取得し、その後京都大学東南アジア研究所において研究員として東南アジアを中心とする地域研究に携わり、2009年には人間文化研究機構総合地球環境学研究所において助教として地球環境科学に関する研究をおこなって参りました。

これまでの私の研究は情報地質学を基盤としており、具体的には地下の地質構造を野外調査より得られた地質データ（走向・傾斜データ）や標高測量データ、ボーリングデータを用いてコンピュータで推定し、3次元モデルとしてGIS（地理情報システム）で可視化する手法を構築してきました。地下構造を正しく推定するためにはこのような地質情報が重要となり、地層が形成されてきた過程、つまり層序関係をコンピュータで矛盾なく処理する必要があります。そのため、さまざまな地質現象を数学的にモデル化し、地層の堆積、侵食という単純な地質現象だけではなく断層運動という複雑な現象にも対応した地質構造のコンピュータ処理方法を研究してきました。

また、この情報地質学に関する知識を応用して、現在は東南アジア、特にベトナムの都市研究をおこなっています。ベトナムの首都ハノイは、急速な都市化が進む東南アジアでも成長著しい都市の一つであり、同時に数多くの史跡や歴史的建造物を残す歴史都市でもあります。このハノイの都市形成を考える上で、2つの重要な点に着目しています。一つは19世紀後半のフランス統治間にハノイの都市が短期間で急速につくり上げられたため、その影響が現在顕著に現れはじめています。もう一つは、漢字で「河内（ハノイ）」と表せる地形と自然環境であり、古くから水害に悩まされている土地であるということです。これらはフィールドワークとそこで得られたさまざまなデータをGISに入力し、分析して都市の変容を可視化することで浮かび上がってきました。

都市にはそれぞれの歴史や背景があり、発展過程もさまざまです。今後は都市の多様な空間情報を幅広い分野に活用し、都市の災害予測や環境保全、持続可能な都市づくりに関する課題解決に貢献したいと考えています。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



**杉本 賢二**  
(すぎもと けんじ)  
准教授

この度、工学研究科都市系専攻都市デザイン領域（空間情報学）の准教授に着任しました杉本です。私は、高知県出身で、2005年に同志社大学経済学部を卒業後、東京大学大学院新領域創成科学研究科に進学し、2010年に博士後期課程を修了、博士（環境学）を取得しました。その後、東京大学、名古屋大学等のポスドク・教員を経て、2022年4月に新大学の発足とともに大阪公立大学に赴任しました。当初は大学統

合による影響や、名前を呼ばれているのか、キャンパス名なのか判断に躊躇する場面もありますが、教職員の皆様のご支援により、徐々に環境整備を進めているところです。

私の専門は、地理情報システム (GIS) やリモートセンシングを用いた、人間活動の観測、分析、可視化です。具体的には、気候変動が穀物生産と市場価格に及ぼす影響評価、時系列建物 GIS データの構築と物質動態分析などです。また、東日本大震災以降には、災害廃棄物発生量の空間分析や被災者の生活環境の評価など、防災・減災に関する研究もマルチに行ってきました。コロナ禍では、メディア等で「感染者数マップ」や「人流」という空間情報が一般的に使用されるようになり、あるいはトンガ沖の海底火山噴火やロシアによるウクライナ侵攻では、人工衛星の観測画像が現状把握に欠かせない情報となっています。また、高校社会で「地理総合」が必修化され、データサイエンスや DX など、情報に対する社会のニーズは高まっています。こうした時勢を踏まえ、空間情報学を軸として多様な学問分野を統合し、より良い社会の実現に向けた研究・教育活動を行っていきたくと考えています。ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、どうかよろしくお願いたします。



**高木 悠里**  
(たかぎ ゆうり)  
講師

2022年4月1日に都市計画研究室の講師に着任し

## 就職ガイダンス

学生支援活動の一環として、大学が行う学部 1~3 回生、修士 1 回生を対象とした「進路指導・キャリア教育イベント」に加え、都市学科業界説明会を 3 回に渡って開催、第 1・2 回は業界説明会として、各業界から学生に対しての説明会、第 3 回は合同企業 OB・OG 説明会として 40 団体の企業・官公庁に参加いた

ました高木と申します。

2007 年に大阪市立大学工学部環境都市工学科に入学、4 回生時に都市計画研究室に所属となり、大学院博士前期課程に進学後も同研究室にて学生生活を謳歌しつつ修士論文に取り組みました。2013 年からは民間の都市計画コンサルタントに勤務し、都市計画・地域計画、公共空間の計画や設計等に従事しました。その後、2018 年に大阪市立大学大学院博士後期課程に入学、同じく都市計画研究室にて研究を行い、2022 年 3 月に博士 (工学) を取得しました。大阪公立大学として生まれ変わる節目となる年度に着任し、身の引き締まる思いです。

これまでは主に景観研究を行っていました。行政による景観施策等は膨大な既往研究がありますが、近年の都市計画やまちづくりの現場では、民間企業や地域住民が中心となった実践がますます重要となっており、景観への効果も大いに期待できます。そこで、このような取組を「景観マネジメント」と定義し、様々な都市を対象に、景観マネジメントのプロセスや運用方法等の実態解明、効果検証を行い、地域による景観マネジメントを実現する制度を研究しました。今後、これらのテーマを学生とともに発展させていきたいと考えています。

また今年度の都市計画研究室は、博士後期課程 2 名、博士前期課程 17 名、学部 7 名、研究生・研修生 3 名、総勢 29 名の大所帯となります。新型コロナウイルスの影響が続いておりますが、嘉名教授としっかり連携し、研究・教育活動を行ってまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。

だき、開催しました。昨年度同様にやむなくではありましたが、全学の方針もあり、新型コロナウイルス感染症対策として開催しましたが、大きな教室を確保したうえで対面開催形式で実施できました。企業・官公庁の皆様にも十分対策をしていただきながら、円滑に進めることができました。

各回の参加企業は下記のとおりで、多くの先輩諸氏から説明を頂きました。新型コロナウイルス感染症対策で就職活動が厳しい状況のなか、先輩諸氏の多大なるご協力により、就職ガイダンスを進めています。この場をかりてお礼申し上げます。

**第1回目業界説明会：2021年11月25日**

- ・ゼネコン：鹿島建設(株)
- ・建設コンサルタント：オオバ(株)、阪神高速技研(株)
- ・鉄道：JR 東海(株)、京阪ホールディングス(株)
- ・道路：西日本高速道路(株)
- ・橋梁：(株)長大
- ・鉄構・プラント：(株)デンロコーポレーション
- ・環境・プラント：(株)クボタ
- ・地方公務員：奈良県、神戸市

**第2回目業界説明会：2021年12月9日**

- ・ゼネコン：西松建設(株)
- ・建設コンサルタント：中央復建コンサルタンツ(株)、(株)地域計画建築研究所
- ・鉄道：南海電気鉄道(株)、近畿日本鉄道(株)
- ・インフラ：(株)栗本鐵工所
- ・環境・プラント：日立造船(株)

- ・橋梁・鉄構：川田工業(株)
- ・国家公務員：国土交通省、水産庁
- ・地方公務員：堺市

**第3回目合同企業OB・OG説明会：2022年1月14日**

- ・ゼネコン：(株)鴻池組、(株)奥村組、(株)銭高組
- ・マリコン：東亜建設工業(株)
- ・道路：首都高速道路(株)、阪神高速道路(株)
- ・鉄道：大阪市高速電気軌道(株)、西日本旅客鉄道(株)
- ・エネルギー：電源開発(株)、関西電力(株)
- ・建設コンサルタント：中央コンサルタンツ(株)、(株)ニュージェック
- ・橋梁：(株)横河ブリッジ、(株)IHI インフラ建設
- ・機械・環境：(株)プランテック
- ・都市開発：阪急阪神不動産(株)
- ・公務員：大阪府（大阪都市計画局）、和歌山県

## 特別寄稿

### 全国の大学等で活躍する卒業生 (その2)

明石高専都市システム工学科教授  
石丸 和宏  
(H3, 修H5, 博H8)

私は平成8年に後期博士課程を修了し、構造工学研究室園田教授の下、助手として1年間勤務しました。その後、国立明石工業高等専門学校（以下、明石高専）に移り、令和4年3月で25年間の勤務となりました。高専は短大、大学に並ぶ高等教育機関ですが、人数も少なく認知度も低いため、紹介させていただきたいと思います。

高専は実践的・創造的技術者を養成することを目的に設立され、中学校を卒業した人が基本5年間通います。現在は全体で約6万人が学んでいます。教員は大学と同様に、「教授」、「准教授」、「講師」、「助教」の肩書を持ちます。また、入学生は高校の年齢ではありますが、高等教育機関に通っているため、大学生と同様に「学生」と呼ばれます。学生は高専5年を卒業すると、就職と進学に分かれますが、私が勤務する明石高専は、全国の国公私立57高専でトップクラスのため、進学率は6割以上です。進学はさらに大学編入学と高専専攻

科に分かれますが、大学編入学は大学ごとに選考が設けられているため、高校生が大学受験する場合と異なり、複数受験（指導としては3、4校を推奨）が可能であり、明石高専からは東大をはじめとする国立大学に編入学（ほぼ3年次編入）します。なお、専攻科に進学した場合は大学と同じ学士の資格が得られます。

就職に関しては、中学生の時に専門を志望して入学するため、ほとんどが専門学科に関係する企業、役所にほぼ100%就職します。その企業も大学卒業とほとんど変わらないところに、多くの学生が学校推薦を受けます。

高専の教育としては、早期の専門教育が挙げられますが、大学と同様に国際交流が重要とされており、明石高専は海外からの留学生の受け入れと、複数の留学プログラムの提供を積極的に行っています。近年では、イギリスやオーストラリアの大学への編入学や、短期留学で訪問したアメリカの大学に3年生で高専を退学し、その大学に進学した例もあります。

高専は、時代とともに変わりつつありますが、教員の仕事内容は、これまで通り教育、研究することは変わりなく、特に近年では積極的な学会活動、学会参加が推奨され、優秀な学生たちとの交流は大変楽しく、教育・研究活動ができます。

私自身25年勤務いたしましたが、これまでやって

こられたのは、大学の先生方と先輩方のご助言、ご指導のおかげであり、大変感謝しております。

最後になりますが、大阪市立大学改め今年から大阪公立大学となりましたが、これからもさらなる発展を期待しております。



### 時川 和夫 (昭和 38 年卒)

毎度会報送付頂きありがとうございます。小生は38年度卒業の時川と申しますが、近年のコロナの流行により少なからずの影響を受けております。まもなく冬季オリンピックも終りを迎えることになりましたが、お蔭さんで、スキー、スケート、ボードに皆さんの関心が一層高まってきております。小生も毎日TV観戦をしながら日本選手の頑張りを応援しておりますが、一方札幌市の小中高学生のスキー指導や日本全国から訪れる学生、一般プライベートレッスンに

携わっておりますが、市大の皆さんへのPRが無かった事に気づき急遽メールした次第です。近年札幌では小中高生に対して冬季間スポーツ奨励策としてスキーの研修教科を各学校単位で行っており、コロナの中にあっても各スキー場にはバス仕立てで教科として訪れて、各スキー場のスキー指導員がそのお手伝いをする運びとなっております。そんな訳で小生もスキー指導員の資格を存分に発揮しているところです。スキーの期間は、札幌では例年、11月末より5月上旬(連休)までスキーが出来ますので、またお子さん、家族、高齢者と幅広く対応できる事になっておりますので、ぜひご検討ください。お越しの際は小生まで、

Email: kazuotokikawa@gmail.com

〈mailto:kazuotokikawa@gmail.com〉

(TEL) 011-813-6803 (自宅) ご連絡ください。



### 海外便り (その1)



(株)IHI インフラシステム  
海外プロジェクト室  
プロジェクト部  
バンガバンドゥ PJグループ  
三原 邦啓  
(H7)

事務局から『海外勤務の方からの記事を掲載したい』との依頼を受け、正直驚きましたが、せっきくの機会

ですので、私が今携わっている仕事の内容や環境について、記載させていただきます。

私は平成7年に卒業後、松尾橋梁(株)に就職し、その後(株)IHI インフラシステムとなり、現在に至ります。主に国内の橋梁設計(鋼橋)をしていましたが、2021年末からバングラデシュにて、“Bangabandhu Sheike Mujib Railway Bridge Construction Project Package - WD2(Western part of Civil Works)”というプロジェクトで、Chief Engineering Managerとして仕事をしております。

阪神高速1号環状線リニューアル工事  
HI-SPEC シール工法 (LTタイプ)

「水」で人と未来を守る。

株式会社アイゾールテクニカ  
isol technica

YouTube

Straight  
to the Future

オリエンタル白石株式会社

プロジェクトの内容は、簡単にいうと既設の道鉄併用橋の300m上流に鉄道専用橋梁を新設し、軌道を切換えるといった工事です。架設地点の川幅は4km以上あり、工事名にもある通り、そのうちの西側2.25kmが橋梁の施工範囲(23スパンのトラス橋)です(東側は別パッケージ)。また、橋梁へのアプローチ(土工、盛土区間)や駅舎部の更新・改築工事も施工範囲となっており、工事延長は6.075kmに及びます。

この工事は私にとって初めての海外工事であり、また初めての海外勤務です。卒業後、日本で20年以上、鋼橋の仕事をしてきた私にとって、英語の仕様書や図面を見ることは全てが初めてのことで非常に苦労しています。また、橋梁(鋼橋)だけであればまだなんとか経験を活かすことができるのですが、下部工や土工、建築、さらに軌道工事まで施工範囲に入っており、その全てが初めての経験で、この年で言語も含めまだまだ研鑽を積まなければいけないと改めて実感しているところです。

まったく、英語ができなかった私ですが、周りの人から『なんとかなる』と言われて約1年仕事をしてきましたが何とか仕事は前に進んでいます。英語が苦手だけど海外工事に興味があるという方はトライしてみてもいかがでしょうか、『なんとかなる』と思います。スタッフは、日本人の他に、バングラデシュ人、トルコ人、インド人、フィリピン人、ベトナム人と非常に多国籍です。事務所内では、日本語、英語、トルコ語、ベンガル語、タガログ語、ベトナム語、ヒンディー語が飛び交い、大ハブ空港の待合室にいるような感じです。しかしコミュニケーションをとるのは母国語ではない英語です。非常に面白いですよ。

一方、生活面では現場近くにキャンプを設けており、職場(事務所)や宿舍も全てキャンプ内にあります。中々、手に入りにくい食材(豚肉とか)があり、日本

と同じような環境とまではいきませんが、それなりに不自由なく生活することができます。

この記事を読んでいただき、少しでも海外工事に興味を持っていただけたら幸いです。現場はこれから本設工事が本格的に始まります。コロナ渦でなかなか自由に海外渡航ができない状況ではありますが、バングラデシュにお越しの際はぜひ現場にお越しください。



中央(右から7人目が筆者)



河川範囲  
(右岸)  
既設橋、  
対岸では  
なく中洲



土工範囲

100年をつくる会社

鹿島

コンクリートで+αの可能性を広げる

**ケイコン株式会社**  
 プレキャストコンクリート製品の開発・設計・施工・製造・販売・総合建設業  
 【本社】  
 〒613-0903  
 京都市伏見区淀本町225 TEL:075-631-3231 FAX:075-631-9588  
<https://www.kcon.co.jp>

## 連載企画 『10年ひと昔で強める同期の絆』

10年ひと昔 長いようで過ぎてみると短い外面の変化は隠しようがないけど、心根は卒業の時のまま  
 その積み重ねで気がつけば〇年  
 そんな区切りの年を迎えられた学年の同窓会の様子を語っていただきます  
 毎年区切りの年はありません 次はあなたの学年ですよ

### 卒60年を迎えて 三田村 武 昭和36年卒

私ともS36年に土木工学科を卒業した同級生は、去年、卒60年を迎えました。過ぎてしまえば、あっという間の60年でした。

学生の時、ともに学んだ級友は25人。卒業の時に5年ごとに再会しようと約束して、『25人の会』をスタートしました。しかし、今では25人のうち9人が亡くなり、体調の思わしくない者もいて、集まるのは10人ぐらいになっています。

2001年の秋に、奈良・吉野で卒40年の記念のクラス会を行いました。その時は15人の出席でした。三笠先生にもご出席いただき、盛大に実施できました。

それ以降、そろそろ現役を離れ始めたわれわれは、年に1回の集まりを楽しむようになりました。ここ10年では、一泊旅行を主にして、京都東山、伊勢志摩、琵琶湖周辺、淡路沼島、能登半島、奈良飛鳥等々でのクラス会を開催し、懇親を深めてきました。

また、2018年には、同級生の園田恵一郎君（元市大土木工学科教授）の叙勲のお祝いの会をあべのハルカスで実施しました。ごく最近の2019年の秋には、有馬温泉・六甲山に行きました。その時、まもなくの卒60周年のクラス会は、盛大にやろうや」と言って別れました。去年2021年がその年でしたが、コロナ

渦で集まれていません。

今年こそは、元気なうちに、1年遅れの「卒60周年の会」を開催したいと思っています。



2017年10月  
 奈良・高松塚古墳の前で  
 飛鳥路散策  
 この時は8人の参加でした

### 古い、人生の終焉、幸せとは ～後期高齢者を控えての雑感 伊藤 忠 昭和46年卒

ひょっとするとこの感覚は？  
 人間、この世から遠ざかる時に、この様な至福の時々を思い浮かべながら永眠できたら。

眼科医院で「黄班上膜」と診断があり、人間のスクリーンに当たる眼の奥底にある黄班上に出来た薄い膜を剥がすのですが、1時間強の手術を終えて、自宅の暗い寝室で音楽を聴きながら過ごしていた時



地球のために  
 人のために  
 デザインする使命

<http://kitai-r.jp/>

建設コンサルタント  
**キタイ設計(株)**  
 KITAI

土木構造物の  
**維持管理の全局面を担う**

調査・診断、設計、施工管理支援

 株式会社CORE技術研究所  
<https://www.coreit.co.jp>

本 社 〒530-0047 大阪市北区西天満1丁目2番5号大阪JAビル4F  
 Tel.06-6367-2122(代) Fax.06-6367-2322  
 東京支店 〒111-0053 東京都台東区浅草橋3丁目8番5号VORT浅草橋8F  
 Tel.03-5825-9166(代) Fax.03-5825-9170

の事です。術後の日は完全安静で、パソコンは勿論、テレビや読書といった眼に負担のかかる行為は一切禁止状態です。翌朝まで食事時間を除いて暗い部屋で一人、過去の記憶を辿っていろいろと走馬燈に映る影の様に思い出したり、反省も含めて考えたりもしました。丁度、10年程前に一人で四国遍路を歩き通した折りに、その道中の心理状態によく似ています。両親や家族・親族のこと、お世話になった故人、遠方に居られて永くご無沙汰している人々との齢を重ねていく途々での出来事などです。

思うところがあり、大阪市役所を退職後、趣味の世界や二つの公益法人事務局のお手伝いなどで時間消費を続けました。我々団塊世代は、幼年時代から競争社会に放り出され、日本の経済成長と共に生きてきました。生産性、効率性、他者との対比を気にしながらの「モーレツ人生」があたりまえでした。ところが勤労から遠ざかれば、日々人生観が変わっていくようになりました。学生時代に習った少林寺拳法は忘れて六十の手習いとして太極拳を女房殿と一緒に習い始め、スポーツジムも通勤途上の所から近所に移して運動よりも大浴場の方を楽しんでいます。図書も好きな古代史は別にして著名作家の人生に対するエッセイや「いのち」に関するモノが増えました。三年前に患った「大腸憩室炎」以降から早朝の散歩と体操を始め、四季折々の公園の草木の変化も楽しむ様になりました。退職後の生き方についてはそれなりに誰にも相談無く紆余曲折を経ましたが、最後には自分に正直に、幸せ感を得ることだと思いつくようになりました。古稀を過ぎての「来年桜が楽しめるのか」から傘寿を過ぎると「来月の満月が楽しめるのか」と巷では云われている様ですが、私の場合は70歳を過ぎてからは残り人生をカウントダウンで数え始めました。日本人男性健康寿命である72.68歳を超え、平均寿命である

81.64歳までヒト桁となりました。「死」についても若い時に感じていた何か宗教的な臭いがするものからフィジカルな感覚に変わってきました。

そうだ、このまま苦しむことなく永遠に無意識になれたら、きっと「元気に死んだ」と家族から祝福の言葉を浴びるので・・・但し、この稿が掲載された時もまだ元気に生きていると思います。



**六十半ばに差し掛って**  
**太田 誠三 昭和 56 年卒**

昭和56年卒業組は、今年64・65歳になる者が殆どである。世の中では65歳まで定年延長が一般化しようとしている昨今ではあるが、丁度過渡期にあたり、同期の仲間も卒業後に就職した職場で引き続き働いている者、異なった職場で働く者などが入り混じっている。

そのような仲間が集った時の話題はいつも学生時代の思い出である。特に研究室に配属されて以降、それぞれの研究室での夜を徹して行った実験や卒論作成、就職先をじゃんけんで取り合ったこと、就職が決まっていたのに3月に卒業出来なかったことなど。それでも何とか就職すると学生時代のことなどほとんど忘れ、仕事や家庭のことに没頭していった。しかし、大学を卒業してスタートを切った会社勤めもゴールが見えてくると若い時が懐かしくなり、親の介護の合間を縫って、所謂「同窓会症候群」を発症することになる。

まじめに、まっすぐ  
**KONOIKE**

建設はもちろん社会基盤の再生や環境保全の取り組みなど  
私たちの事業は、明日を支えるために今日をがんばる仕事。  
環境浄化技術をはじめ最先端の技術革新に挑戦しています。

**鴻池組**

**ワクワク未来  
創りたい**

**Mr.PENTA**

その先の向こうへ  
GOING FURTHER  
**五洋建設**  
PENTA OCEAN CONSTRUCTION  
東京都文京区後楽 2-2-8  
<http://www.penta-ocean.co.jp>

そして六十半ばに差し掛かった今、私は「同窓会症候群」の延長で中学、高校の同窓会の幹事、都市学科の学年幹事（故に本文執筆を依頼された）、大学のクラブ（陸上部）のOB会長、全学体育会系クラブOB会連合会の副会長（OCUSA）、職場のOB会の世話役・・・、本業よりも多くの時間を取られている。どれも今までお世話になった方々への恩返しのためでやっている。

他には、趣味として学生時代のクラブの延長線上でマラソンを続けている。目標は、70歳で5時間切り、80歳で6時間切り、気の長い話だ。また、国内で未だ行ったことない所に旅行して、その土地にまつわる事を色々知りたい。そして、海外旅行が解禁されれば、まずはハワイへ、そして北欧へと夢は広がるばかりである。60歳台は時間的・心理的・経済的・身体的等々に少し余裕が出来る頃である。やりたいことが際限なく広がるので、黄金の60歳台が過ぎてしまわないか少々焦っている。まさに、生き急いでいる状況だ。

本稿の執筆依頼を受けたのは1年以上前になると思う。その時は、今頃はコロナ禍もほぼ収束し、同期の連中との恒例の暑気払いや忘年会の様子を写真付きで報告できるものと思っていた。しかし、ご存知の通り、コロナ前の状況とは程遠く、これも中々開催できない。この盆と正月の同窓会も是非復活させたいものである。案内係は研究室持ち回り、会場確保は京阪の中野君にお願いしている。幸運にもメールで簡単に連絡を取れるようになっていたので、連絡が届けば、遠方の友も「同窓会症候群」を発症して参集されることを期待する。なお、連絡先を変更する方は、sket-ota@yahoo.ne.jpまでメールをしてもらいたい。

最後に、大阪府の要請を守りながらコロナ禍の間隙を縫って行ったミニ同窓会の写真を掲載する。

(竹中工務店勤務)



左から中野君、私、藪内君、東君

## 10年を振り返り、先を見る 鈴木 達也 平成 23 年卒

私は都市基盤工学科を平成 23 年に卒業しました。在学中は地盤工学研究室でお世話になり、主に新しい地盤調査法の開発をテーマに様々なことを学びました。大学・大学院を卒業後は(株)ニュージェックに入社し、発電所の土木構造物の耐震照査に関する仕事に従事しておりました。昨年 4 月からは、部署を異動し、港湾施設の設計に関する仕事に従事しています。

思い返すと、卒業してからあつという間の10年でした。この10年を振り返って、私なりに感じたことを書かせていただきます。読者の皆様が自分の10年を振り返るきっかけになれば幸甚です。

会社には大阪市立大学を卒業した先輩や後輩がたくさんいます。入社してから知った人がほとんどですが、同じ母校を持つというのは不思議なもので、すぐに打ち解けます。土木系だけではなく、建築系の人もいたので、一緒に飲み会も開催しています。

大学時代、共に学んだ同級生。他大学と比べて、1学科の人数が少なかったため、みんながお互いをよく知っていました。卒業後は、狭い業界ゆえ、仕事上出会うこともあります。名刺交換の際に、つい立場を忘

なにができるんだろう？

夢と希望にあふれた  
社会づくりを実現させるために、  
わたしたち大成建設は  
これから人がいきいきとする環境を  
創造します。

地図に残る仕事。  
**大成建設**  
For a Lively World

思いがあって、土木がある。

亀山サンシャインパーク  
三重県

東名阪自動車道  
亀山パーキングエリアに  
隣接する総合公園。  
公園施設の老朽化が  
課題となっていました。

テーマやゾーニングなどを  
再検証し、多世代にわたって  
思い出が引き継がれるよう  
整備方針の策定・公園施設  
の実施設計を行いました。

<https://www.ne-con.co.jp>

**大日本コンサルタント株式会社**  
NIPPON ENGINEERING CONSULTANTS CO.,LTD.

れてニヤついてしまうこともありました。

縦と横のつながりがあることで、仕事はスムーズに、社内はアットホームに変わったと思います。これから先も多くの市大出身者と出会えることを楽しみにしています。

入社当初は、夜遅くまでバリバリ働くのが当たり前でした。今は働き方改革で効率的な働き方が求められています。またワーク・ライフ・バランス実現に向けて、様々な取り組みや制度改革がなされました。

私は昨年末、息子誕生の機会に育児休暇を取得しました。チーム員や上長の理解・協力のおかげで、産まれて間もない息子との貴重な時間を過ごし、家族を支えることができました。この時間は何事にも代えがたい時間でした。社会の在り方が変わったからこそ、周囲の理解を得やすく、育休を取得しやすかったと感じています。

今回の企画のお話を戴いたことを契機にこの10年を振り返ると、社会や周囲の環境と共に自分自身も「変わった」と感じるが多々ありました。この「変わること」は「進化」と捉え、次の10年も「無変化」とならないよう、充実した毎日を過ごしていきたいと思っています。



会社での市大会 (2018年開催)  
 (後：中村、藤田、深山、藤井、鈴木、海妻)  
 (中：内田、松野、山本、河合)  
 (前：吉村、中西、久野) ※敬称略

## 社会の“あたりまえ”を守り、創る

佐々木 健太 平成23年卒

大学・大学院を卒業して、「あっ」という間に9年が経過しました。

大学時代、地域環境計画研究室の先生方に御指導いただき、帯水層蓄熱に関する研究に没頭したり、先生方や仲間と研究室で遅くまで話したり、時に大酒を飲んだことを、つい最近のこのように感じます。

最近、「VUCAの時代」という言葉をよく耳にします。取り巻く社会環境の複雑性が増し、次々と想定外の出来事が起こり、将来予測が困難な状況のことを指しますが、数ある“想定外”の出来事の中でも、新型コロナウイルスの影響や、脱炭素社会の実現に向けて今まで以上に社会が急速に動き出している変化等、仕事をしていく中でも、これら大きな変化に対して、柔軟かつ迅速な対応が求められるようになってきました。“想定外”という観点から言えば、この春から、母校が大阪公立大学として新たにスタートを切ったことも、昔の自分からすると、驚きの出来事であったように思います。

私は、大学院を卒業した後、関西電力(株)に入社しました。理系の素養を持ちながら、営業・開発・企画も行う“技術コンサルティング”という職種で入社しました。現在、入社10年目を迎えています。法人のお客さまの営業担当業務や地域開発プロジェクトの技術検討業務、複数の他企業へ出向し、設備設計業務やSaaSの企画業務を担当する等、入社前には想像していなかった担当業務を多く経験し、その都度、関係者の方々と何度も議論を重ねながら、一つ一つ課題をクリアすることを続けてきました。学部生の時に受講した環境都市工学科の総合演習や卒論・修論を進める中での「他の人の意見を聞き、考え、物事を進めていく」という経験

挑め、進め、超えろ。

**鉄建建設**  
 TEKKEN

www.tekken.co.jp

Create Value,  
 Build the  
 Future

私たちの今が、社会の未来を創る

**東亜建設工業**  
 TOA CORPORATION

〒163-1031 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー www.toa-const.co.jp

が、少しは活かしているようにも思います。

当社では、電力・ガスの販売だけでなく、全国のお客さまと社会の“力”になれるよう様々なソリューションサービスの提案にも注力しており、私自身、現在、法人向け新規サービスの開発・販売の事務局を担当しています。事務局メンバーはそこまで人数は多くないものの、チームの上司と後輩は、同じ、市大の環境都市工学科・都市系専攻出身のメンバーと一緒に仕事することもできており、社会に出てからも、市大時代の繋がりを心強く思いながら、業務に取り組むことができています。

これからも“想定外”の出来事には沢山出くわすことになると思いますが、10年後、20年後と変わらずお客さまから選んでいただけるような価値をお届け

できるよう仕事に邁進していきたいと思っています。



会社でのサービス開発チーム

(左上：平成17年卒 林 直人さん 左下：平成26年卒 浅田 雄樹さん 右下：佐々木)

## イベント開催報告

### 第8回 大阪市立大学都市会 東京支部総会 報告

令和3年11月19日（金）に、第8回大阪市立大学都市会東京支部総会が東京品川のアリス・アクアガーデンで開催されました。都市会東京支部は、土木会の東京支部として、昭和60年に発足し、平成3年から毎年、原則として、土木の日に合わせて支部総会を開催しており、会員の親睦、近況報告等を行っています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止としましたが、今回は会場側のご協力を

得て、感染防止対策を実施し、第8回都市会の開催となりました。

当日は来賓として都市会本部より住吉正信会長並びに大内一元教授にご参加をいただき、会員14名と合わせて16名で開催いたしました。

総会は川満支部長の挨拶で始まり、ご来賓の方々に大学の近況も交え、ご挨拶をいただき、懇親会も盛況の中、無事に終わることが出来ました。コロナ禍の中、ご出席いただきました会員の皆様には心よりお礼申し上げます。

令和4年度の支部総会は11月18日（金）に場所は同じアリス・アクアガーデン品川で開催いたします。品川駅から徒歩3分と新幹線への便も良いので、出張等で上京の方や逆に東京へ帰省される方も是非ご

人と地球にあたたかな技術、  
ハートテクノロジー。

海の息吹、大地の鼓動、そして都市の活気。  
地球の自然と快適な生活の調和こそ、私たちの願いです。  
人にあたたかな技術を追求し、夢を確かなカタチに育て、  
感動の明日を築いていきます。

東洋建設

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-1-1  
Tel.06-6209-8711  
http://www.toyo-constr.co.jp

戸田建設  
www.toda.co.jp

TODA Group Global Vision  
“喜び”を実現する企業グループ

参加ください。

また、転勤等で関東地区に異動になられた方は、東京支部幹事までご連絡ください。

会費は新卒、現役学生の方は無料、卒業5年未満の方及び65歳以上の方は3,000円、その以外の方は5,000円となっております。

大阪市立大学都市会東京支部  
幹事 中村龍由 S60卒

E-mail [nakamura-tatsuyoshi@toyo-const.co.jp](mailto:nakamura-tatsuyoshi@toyo-const.co.jp)



ことができました。懇親会では各賞の発表および市土会の名称も話題となりました。表彰式では住吉正信(S46卒)さんが(GR92、NET72)のスコアで優勝されました。住吉さんは今回で3度目となり単独トップの優勝回数となりました。ちなみに、参加者のスコアは2名が90台、7名が100以上でありました。同窓の皆さんご気楽にご参加ください。

当会は新型コロナの影響で2年間自粛していましたが、1990年を第1回とする会の継続と市大として最後であり昨秋の開催を計画しました。中止のリスクと感染の谷間を狙った短期間での準備のため案内は最近の参加者のみとさせていただきます。ご案内できなかった皆様にはお詫び申し上げます。次回は大阪公立大学となった今年の秋に「都市会ゴルフコンペ」と名称変更して開催予定です。

(追伸) 会長の徳本行信氏(S46卒)におかれましては、昨秋より病氣療養中のところ本年1月にご逝去されました。第21回より会長として、その真摯な人柄と人望で市土会の継続と発展にご尽力されてきました。これまでのご功績をしのび、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

報告 幹事：岡田(S60卒)、吉田(S62卒)

## 第28回 市土会ゴルフコンペの報告

第28回市土会ゴルフコンペ(徳本会長)が令和3年11月30日に聖丘カントリー倶楽部で開催されました。今回は参加者9名と少人数でしたが、小春日和の快晴のもと年齢とともに落ちた飛距離は小技やワールドティーで挽回、楽しくプレイして親睦を深める





自然と人を技術で結ぶ  
Harmonizing People with Nature by Technology

交通・都市部門

- 都市施設・景観デザイン
- 上下水道
- 道路・橋梁
- 港湾・海岸
- PPP PFI

基盤技術部門

- 地盤・地質
- 環境
- 電気通信
- 耐震診断・評価

建築部門 (一級建築士事務所)

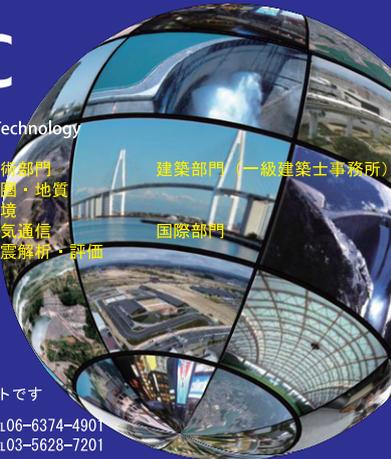
国際部門

河川部門

- ダム・河川・砂防

株式会社 **ニュージェック**  
我々は関西最大の総合建設コンサルタントです

大阪本社 大阪市北区本庄東2-3-20 Tel.06-6374-4901  
東京本社 東京都江東区亀戸1-5-7 Tel.03-5628-7201  
<https://www.newjec.co.jp>



# Technology & Design Company Plantec



五島市庁舎センター(長崎県)

焼却プラントを、美しく。廃棄物を、エネルギーに。

**株式会社 プランテック**

〒550-0003 大阪市西区京町堀1丁目6番17号 TEL:06-6448-2200(代表)

〈採用情報〉 <https://www.plantec-kk.co.jp/recruit/>



## 都市会の皆様へ 都市学科ホームページの紹介と寄稿の依頼

### 都市学科 HP 委員

大阪公立大学の都市学科が始まりました。

それに合わせて学科のホームページ  
(<https://www.omu.ac.jp/eng/urban/>)

も新しくなっています。一度ご覧いただければと思います。その中で、「教員・在学生・卒業生の声」というページがございます。都市学科についてはオープンキャンパスなどでも（時には入学者でさえも）、どのような就職先があるのかわからない、といった声が聞かれます。都市学科のホームページを見て進路選択をする高校生たちに向けて、今後も継続的に都市会のOB・OGの皆様にお仕事の内容やメッセージをご寄稿いただき、都市学科の関連分野の広がりについて紹介していきたいと考えています。自薦・他薦は問いませんので、同じく都市学科のホームページの「お問合せフォーム」よりご意見・ご要望をお知らせください。学科のホームページを充実させることは受験生の獲

得に直結し、新たな大阪公立大学工学部における都市学科のプレゼンスを向上させることにもつながります。皆様のご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



都市学科 HP



## 令和4年度総会・懇親会の中止について

例年、会員が年1回集い近況を語り合い、また、現役学生との交流の機会として、総会・懇親会を開催していましたが、今年も残念ながら新型コロナウイルス感染防止のため中止します。

## 令和3年度電子・郵便投票のお知らせ

**投票期間 令和4年7月4日(月)～7月17日(日)**

総会の中止のため、令和4年度総会でご審議頂く予定の議案につきましては、電子・郵便投票と致します。議案書は、

- ①下記QRコードから議案書読み込み (直接議案書の読み込み)      ②都市会 HP にアクセス (都市会 HP から議案書読み込み)      ③前記の方法でアクセスできない方 事務局までメール・FAX等で連絡下さい。



(経費節減のため、ご理解の程お願いを申し上げます)

# 事務局だより

## 会員数 (令和4年4月1日現在)

正会員 2,563名、特別会員 153名 学生会員 314名、  
総数 3,030名

## 会費の納入のお願い!

### ●会費

年会費は令和4年度から 3,000円です。

- ・都市会会計は名簿発行を致しましたが、会費納入へのご協力のお蔭で繰越金を大きく減らすことなく決算ができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。会員へのサービス提供を継続できるよう引き続きご協力よろしく申し上げます!

### ●旧環境都市会同窓会に在籍された会員の皆様へ

平成26年度に旧土木会、旧環境都市同窓会、旧都市会が合併して「都市会」が発足して5年目を迎えます。旧環境都市同窓会会員の皆様には終身会費として10,000円をお支払い頂いており、都市会発足後の5年間は会費の納入が免除されておりました。しかし、都市会発足時の規約制定に従い、令和元年度から年会費を請求させていただいておりますので御了解のほどお願い致します。

### ●終身会費

一括して会費を納入していただくことも可能です。会員在籍年数に応じて以下のように定められております。(令和4年度会費改正により改定)  
会員在籍年数 (会費滞納のないことが前提です)

|              |          |
|--------------|----------|
| 11年～15年以内の会員 | 105,000円 |
| 16年～20年以内    | 90,000円  |
| 20年～25年以内    | 75,000円  |
| 26年～30年以内    | 60,000円  |
| 31年～35年以内    | 45,000円  |
| 36年～40年以内    | 30,000円  |
| 41年以上        | 22,500円  |

在籍年数が50年を経過した会費滞納のない会員は、以後の会費納入が免除されます。

## 会員交流の促進

### ●職場班の結成を促進します!

従来、職場班は全員参加がルールとなっていました。令和元年度よりその縛りをなくします。5名以上の会員で結成することができ、会費の10%を職場班活動費として補助します。現在、大阪市、近鉄、神戸市の3職場班があります。

### ●職場代表幹事制度

H30年度より各職場と都市会の連絡の窓口となる職場幹事を選任して頂き、会員情報収集等ご協力をお願いする「職場代表幹事」の選任を進めています。既に下記20社の方にご協力を頂いており、ご検討をお願いします。

(大阪市、大阪市高速電気鉄道、大林組、奥村組、鹿島建設、関西電力、近鉄、栗本鐵工所、鴻池組、神戸市、五洋建設、大成建設、東亜建設工業、東洋建設、西日本高速道路、ニュージェック、三菱重工和歌山県、IHIインフラシステムズ、JFEエンジニアリング)

### ●都市会女性の会

令和2年度に都市会女性の会が発足しました。今、建設業界ではより一層の女性の活躍が期待されています。活動への積極的なご参加、ご提案をお待ちしています。

女性の会

HP <https://ocurbanjosei-web-3.jimdosite.com>

メール [ocurbanalumni Josei@gmail.com](mailto:ocurbanalumni Josei@gmail.com)



## 会報への広告掲載の御礼

会員の所属機関の広告を、会報に掲載させていただいております。広告収入は会報の発行に大変大きな支援となっております。本紙面をお借りしてお礼申し上げます。(なお、掲載はアイウエオ順とさせていただきます)

## ホームページへの会員活動情報掲載

会員の活動が雑誌や新聞等に掲載された場合は、事務局に連絡をお願いします。活動の様子を HP にアップしています。最近では、①都市学科内田教授の毎日新聞「ひと」②大垣賀津雄様(昭和 59 年卒)「土木学会誌 22/2 高機能鋼材と長大橋プロジェクト-鋼・コンクリート合成構造の将来展望」を UP



## 意見の募集

会員相互の研鑽と親睦を図るための企画やご意見を下さい。会員交流会や学生支援などの具体的な提案があればどしどし事務局へご連絡くださるようお願い申し上げます。

## 大阪公立大学発足(令和 4 年 4 月)に伴う「新工学部同窓会」の設立状況について

工学部同窓会会報 2021/12/20 号をご覧ください  
 新入生は大阪公立大学学生、在生は大阪市立大学学生となります。



## R3/5-R4/5 ご逝去された会員

| お名前      | 卒業年            | 御逝去年月   |
|----------|----------------|---------|
| ・森吉 康雄 様 | (S58 卒)        | 2021/5  |
| ・阪口 隆雄 様 | (S59 卒)        | 2021/8  |
| ・瀧 隼雄 様  | (S35 卒)        | 2021/10 |
| ・平通 信生 様 | (S39 卒)        | 2021/11 |
| ・鈴木 修造 様 | (S44 卒)        | 2021/12 |
| ・北田 俊行 様 | (S43 卒 旧教員)    | 2021/12 |
| ・本告 正之 様 | (S40 卒)        | 2021/12 |
| ・徳本 行信 様 | (S46 卒)        | 2022/1  |
| ・神田 勝己 様 | (S43 卒 旧土木会会長) | 2022/2  |

## 編集後記

新型コロナウイルスにより、昨年度の都市会イベントは講演会を除き中止となり、会員相互の交流ができないという残念な 1 年でした。早期にコロナを克服し従前の交流ができるようになることを御祈念申し上げます。

・「特別企画」「連載企画」へのご寄稿いただける方が少なくなっています。次号は昭和 37 年(卒後 60 年)、昭和 47 年(卒後 50 年)、昭和 57 年(卒後 40 年)、平成 4 年(卒後 30 年)、平成 14 年(卒後 20 年)、平成 24(卒後 10 年)卒業の方々です。同期会の開催や昔話などを寄稿ください。学年代表委員の方よろしくお願い致します。

## 事務局の連絡先

メールアドレス [ocurbanalumni@gmail.com](mailto:ocurbanalumni@gmail.com)  
 電話・ファックス 06-6696-2965  
 都市会ホームページ <http://OCU-toshi.com>



都市会女性の会ホームページ

HP <https://ocurbanjosei-web-3.jimdosite.com>

